

令和7年度

三野中学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 1 主体的・対話的な授業づくりを通して、深く学ぼうとする生徒を育成する。
- 2 授業のユニバーサルデザイン化により、全ての生徒に「分かりやすい授業」を実践し、基礎・基本的な学力を保障する。（三野中スタンダードの実践）

校長

辺見 俊二

学力向上推進員

熊澤 浩己（教務主任）

【各校の取組状況の把握について】

教員相互の授業参観や年間4回（7・10・12・2）の教員による報告などから取組状況を把握し、PDCAサイクルによってプランを実践する。

◎次の（１）～（３）をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

（１）知識・技能の習得

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○与えられた課題に対して前向きに取り組む、自分の考えを記述する力が高い。 ○ペア学習やグループ学習に意欲的に取り組み、活発な意見交換などができる。 ●記述したことを口頭で伝えるための表現力が足りない傾向にある。 ●既習事項を用いて新たな課題に取り組む「つながり」を意識できていない生徒が多い。	・課題に対して、構想や予測を立てて実践し、工夫・改善することができる生徒。 ・自分の意見や考えを、既習の内容と関連づけたり学習用語を使ったりして、表現することができる生徒。 ・社会的・科学的事象や自分の経験等について事案を正確に表現することができる生徒。	・「三野中スタンダード」①焦点化（目標の明示）・②視覚化③共有化④つまづきの想定と支援等の実践に努め、授業のユニバーサルデザイン化を図る。また、タブレットPCの効果的な活用について協働して研修を進める。 ・授業時間ごとや単元ごとに、学び合いの機会を設けるとともに、学びの確認や振り返りを位置づけた授業展開を行う。			

（２）思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○学習したことを、生活や生き方につなげようという意義をもって学ぶことができる。 ○自分の意見や考えを、既習の内容と関連づけたり学習用語を使ったりして、表現することができる。 ○聞き手を意識して、よりよい表現方法を工夫しようと努めている。 ●複数の資料を関連付けて表現することが苦手な生徒が多い。 ●課題解決に向けての道筋や計画を選択したり評価したりする力が弱い。	・社会的・科学的事象や自分の経験等について事実を正確に表現することができる生徒。 ・学習や生活上の課題について、考えるための技法を活用するなどして課題を整理し、解決のための方策を立てることができる生徒。 ・課題について、習得した知識や経験に照れ合わせて考えを形成し、自分の考えや思いを根拠等を明らかにしながら適切に表現することができる生徒。	・思考ツールや図解などを活用し、その枠組みで、課題を整理したり、自分の考えを説明したりする学習活動を多く取り入れる。 ・相互授業参観などの研修を実施し、全教職員が深い学びにつながる発問の技能を高める等の具体的な授業改善を進める。 ・「徳島県学力向上確認プリント」などを活用し、資料の読み取りなどに習熟させる。			

（３）主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○「三野中学学力向上計画」を活用して、学習計画を立てたり、定期テスト後に自己の取組を振り返ったりし、よりよい学習方法を身につけようとする事ができる。 ○朝の読書が定着しており、また、図書室の利用が盛んである。 ○ICT機器を効果的に活用することができる。 ●難しい課題に対し、調べたり試行錯誤したりして答えを導き出そうとする力が弱い。 ●家庭学習を含め、課題を提示されなければ主体的に物事に取り組むことができない生徒がいる。	・目標をもって学習に粘り強く取り組む生徒。 ・学校の学習内容や社会・科学・人の生き方について知的好奇心をもち、探究心のある生徒。 ・学習したことを、生活や生き方につなげようという意識をもって学ぶ生徒。 ・ICT機器を効果的に活用できる生徒。 ・既習した内容をうまく応用して課題解決につなげることのできる生徒。	・定期テストにおいてPDCAサイクルの考え方を取り入れた「三野中学学力向上計画」を記入させ、テスト後、自己の取組を振り返って次につなげるように促す。 ・朝の読書の時間に週に一回程度、新聞を読む日を設け、社会や科学・人の生き方への興味関心を育てる。 ・電子黒板を、タブレットPCと連動させるなど、より効果的な活用を推進するための研修を継続する。 ・質と量のバランスのとれた課題を出し、基礎的・基本的な知識の定着を図る。			